

ケア機能のある街づくり 学童保育における命を守る防災教育

提供学科: 看護学科

◎ 目的

本プロジェクトは、未来の地域を担う子どもを対象とした防災教育を通じて、地域住民と協働した新たなコミュニティ形成について検討することを目的としています。防災教育の対象者は、学童保育に通う健常児だけでなく、聴覚障がいなど何らかの障がいをもつ子どもも含まれています。そのため、特性に配慮した関わり方を地域の人々と共に考え、実践を通じて私たちの活動を評価する仕組みづくりを行ってきました。その実戦での結果をもとに、子どもに合わせた「防災かるた」などの教材を作成し、有効性や地域との相互関係について考察しています。



◎ 実施内容

- ・自然災害リスクについてハザードマップを用いた地区踏査の実施
 - ・学童保育における子どもとの交流活動を通じた対象理解
 - ・地区踏査および学童との交流を踏まえた学びについて発表
 - ・学童保育の子どもに適した防災教育の検討と教材作成
 - ・学童保育における「防災かるた」と副教材の実施、評価および改善
- *ここで地区踏査とは、実際に地域を歩き、(子どもや障がい者の視点で)危険箇所や避難経路を点検する調査活動です。この体験で得た「気づき」を地域住民と共有し、その結果を「防災かるた」などの教材作成に反映させています。

◎ 学びの効果

プロジェクトに参加した学生は、聴覚障がいをもつ子どもへの配慮として指文字を取り入れた「防災かるた」や、「防災リュックを作ろう」ゲームを考えします。こうした教材を用いた実践を通して、相手の発達段階や特性に応じた関わり方、工夫の必要性を理解し、実践する力を養いました。また、多学部の学生で構成されたチームでの活動により、専門分野の異なる視点から防災を捉える学びが生まれました。とくに、留学生との意見交換では、日本与中国における避難方法や防災意識の違いを知り、防災教育には多様な背景への配慮が必要であることを実感した活動となりました。こうした取り組みが、同じ地域に暮らす仲間としての連帯へと繋がってほしいと考えます。